



中村俊定文庫
文庫 18
386



子裕翁追善集

小序

之居居子被其如——八友持其
其——身其如小志也——以市の
父在者令——八月袍在固——小——て
系——了——等——一——已——快——深——其——交——を——結——公
渭——村——白——雲——如——情——わ——と——数——り——
日——不——一——志——を——成——就——す——烈——し——に



余をりたる例は疾咳く
ふやまふく懐月と末の日記
米鹿乃一句不問を塞ふ世の
月花と尺米終り一色は之
とふられたるは花を盛と
濺をふふと終るふ今世の
ふ母いおらぬと。中へ此
老乃淳朴なり平日は掃と居る

玉章より取れ終季乃一併に
此書呂胡ある。将り季は此
介了り拳家より羽ありは此
落今此書なり。折り此表は
父抱乃人しおとらふ。松り
吾流む。日昌子ふむ。笑ひ
子供。陳終りて此。表動り。
十と仇語乃此。此。い。る。記

予、心、以、て、乃、戲、れ、ハ、誠、小、社、也、
 久、快、其、入、場、して、有、る、名、作、也、
 遺、休、を、控、之、く、お、教、へ、
 此、趣、を、法、門、士、に、計、言、し、
 流、し、傳、へ、ハ、高、又、其、存、乃、右、也、
 張、輝、心、也、平、を、批、評、し、小、序、
 と、其、教、本、志、也、

寶曆辛巳中夏日

連阿房



此、歌、下、至、り、心、小、一、稔、也、
 一、海、指、乃、や、り、小、十、五、信、古、を、五、極、業、
 如、蓮、臺、下、上、也、寸、休、力、如、又、
 意、の、聖、教、信、可、く、
 例、乃、仇、借、り、
 豈、小、故、を、て、
 是、

そよよ辞世は一寸狂詠一着とあし
ささる花をよと侍はあはれは川
しをた帰つれはあはれは川
限りあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川
寂しくあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川

石一けは寒すもあはれは川をよと侍はあはれは川 呂朝

捨香

そよよ辞世は一寸狂詠一着とあし
ささる花をよと侍はあはれは川
しをた帰つれはあはれは川
限りあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川
寂しくあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川

何と物もいふらんは川をよと侍はあはれは川 馬六

凡物も達人ふすは川をよと侍はあはれは川
しをた帰つれはあはれは川
限りあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川
寂しくあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川

八月すりは嘆すもあはれは川をよと侍はあはれは川 立和

之枝乃詠はるもあはれは川をよと侍はあはれは川 喆二

嘆とよは乃中もあはれは川をよと侍はあはれは川 七府

多れは乃と人すもあはれは川をよと侍はあはれは川 千甫

そよよ辞世は一寸狂詠一着とあし
ささる花をよと侍はあはれは川
しをた帰つれはあはれは川
限りあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川
寂しくあはれは川をよと侍はあはれは川
小と侍はあはれは川をよと侍はあはれは川

おとしいたふ事かゝる旧友ふつりては
あつたふ事神と志をりぬる心
只かりたふ事かゝる一つふ事と
ふ候を供ふ事といはれぬ
今ハ流ふ事かゝると思ふ
一草とゆふ事かゝる

不教本志ふ事かゝる
あつたふ事かゝる
一草とゆふ事かゝる

字下

白原坊
白原坊

追悼

おとしいたふ事かゝる
あつたふ事かゝる
一草とゆふ事かゝる

旭星

扇蝶

連飛より入りし多量の米
 百担
 ありし人とも下賤月未だ
 米布
 吹ひふ来り凡やあまの椿
 麦雨
 妻多し口はしれん
 子苦
 多きを志す今と
 年小つと儀は節中不月
 明之坊

追悼 文通之部

之を信房は一人の凡雅な志厚く
 得た政清は一集の在を坊々府下
 共々一人と云ふは月日流より二
 比例をくす懐月と申は口日黄泉
 此れと如き序場可なり一悲一
 むし一市と久友別今在り今や
 友徳ははる多し中教の絶文と成て
 麻とわしと云ふは連阿師連
 甲と信一一人は追悼を云ふ
 今念遠きと考へるは伯牙
 友は古一と云ふは一を綴りく
 とはるはと云ふ

在江戸

涇樂今も位あり我もあまの教
 仙尊

詩寄許寧連中

子被房弟まゝ了す一と此は連中也
許者ふ也は也也

梅はすく々もりと花はさるるれ 木五音

淫染と云ふはあれ世は遠く遠くはいふは 露狂

之人如くもしくす津津やおる海月 之笠

心の流と志はあらや塚あつくく 先枝

去冬の末、梅の葉小く切りて、舟に古翁の巻を
装へし。懐月、此世を所者一子被房の巻と
名をて

名とゆくハ果と去秋をあられし 李言

梅さくハ果と流ハ心白とは 坂巻

子被房、弟まゝ了す。一と此、連中なり。
許者、あつと急遣はれし。心折ふ。
祢之ん、如くは、いと、さく、く、は、九、枝、す
けり、と、す。

武州鶴ノ京

祢之ん今や人如く仲のいふるは 柳凡

竹如者かふ一や春如く書かうは 以足

洛陽八幡僧

子被房、弟まゝ了す。一と此、連中なり。
許者、あつと急遣はれし。心折ふ。
懐旧、さく、く、は、い、と、は、い、け、は、肝
乃、竹、如、く、書、か、う、は、の、眼、喜、世、信、の

すゆりて夏夜を思ひたりしきり
有るく想しに其胸を掃き去りて世に
志は徒なるや春は寒き久しき
花咲く月満ちく夕散る
ふふわくそそくそそくそそく
此よりりてあはれ命はちきり
訪ふ可蹤宛り遠念の月が志願
を

魂はあつちつみて床に紙を 玄角

子種老人の所はるりや
ささかおといやむ日か
旧文

おと氣やいふ腕は花 土来

少種子の紙馬はあつちきり
とおとつちきりて感し
幸と契ふ小はるり

世は清くさやとやけき 迂耕

いふ所は遊業小法玉
こはなの本懐とよめり

てはるりいふや雲り 万中

寤一夜やおとい 祖乃

ふふふふふふふふ 南洲

山はふふすまをぬけし。あくる
元日の上はふふすまをぬけし。あくる
山人や身実似たりとのをかくて舟を連
中の一老が舟に情をなげく人か
舟りなす中ふ我のわきまを詞の
と志の歌を舟に寄る花はかき舟に
ふしうぬ介はは誓舟舟の波流ふさ
張るつるをせし

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

山はふふすまをぬけし。あくる

石川の氷と雪のくさくさ
 人如世と海一宮の清き
 世と一西雪くくく
 おといわす清きくさくさ
 宮と清きくさくさ
 くさくさと清きくさくさ
 凡新の原の切子月く
 子紙の原の切子月く

呂圭
 里三
 昔好
 花雀
 素也
 節巡

香と元小清くく花かか

子紙房の清世と感くく

見ゆきて心花や玉とや

け老人の初め一白くく

花如世小くく

今とわつ欠く
 一歌集を遊小
 一歌集を遊小

盈枝

伊良知語と、
 川子
 水と世とあそびやく柳小
 栄竹
 ころあそびとあそびやく柳小
 湯橋
 世と飛んく浄土一白一板打系
 左角
 西方も花はあそびやく
 菊長
 一しし作波や一板水一り
 小近
 浪君はあそびやくあそびやく
 麦司
 かゆらふ水世とあそびやくあそびやく
 佳月

浪君乃あそびやくあそびやく
 為文
 言はあそびやくあそびやく
 純六
 言しあそびやくあそびやく
 以吾

六句表

子被房の命乃つてと足非房は
 一泉

筑紫の足飛守清五八んはあそび
 左螯

定盞小のれ流とよみゆく

蛙井

う原起と友と小ゆく志楽

泉

茶いりさ柳小おとふ月お存

蝨

暖くうくと多れ筆お情状

井

二二

蛙井

まおのれお雲入り入るゆり

月おとけおさるぬ湯を

左蝨

蒼く介流おれ雲小は明て

一泉

おおれお清流おんふお登

井

虫特も教も見へる月お登

蝨

小い支争小草お伝

泉

天おおお小坂一ぬふ子秋房を学

かゆらふやうけおふは

眞寧

ゆりこねまはわおれお梅の花

二幸

去るのみにあつては月おを
いふおれおと傳

一いつ今やせぬ人の情は承と尋ねふ
予よりすくなくも老の身はあつこ
二百八の川ふさけりしをよの

也有

魂をくり秋来むしけりさるれ

儘く又拾取せは花は春 蓮阿

空を流せぬさる水はりて 羽墨

卓小石ふりし膝にぬれや 左賢

月不之原の露清はれぬ子寸 桂妻

貸し失しつゝいふ後植 川子

あ川寒ととらいつ草はれぬ 迂科

麻えく望念は途る悲病 湖外

妹人し芝花は此と一ツ元 杜曉

后如口のちとねお宵やい 曾好

御行おと好おれあつゝ木履 白兔

念れく母おさるゝ紫麩 也雀

日窓中お月小涼しは霞山花 一泉

放竹お宇治お右所 前長

貴父入於舞^{カラハ}中^ハ也^ハ拾^ハ 呂^ハ圭

別毛先^ハ長^ハ左^ハ史^ハ 里^ハ三

公^ハ東^ハあ^ハれ^ハ稿^ハ十^ハ々^ハ下^ハり^ハ種^{ヨク}と^ハ先^ハ 武^ハ旦

矢^ハ管^ハふ^ハ川^ハく^ハ芳^ハり^ハ乙^ハ也^ハ 盈^ハ枚

小^ハ川^ハの^ハ心^ハの^ハ心^ハ折^ハり^ハ不^ハ供^ハ費^ハ 買^ハ夜

霞^ハよ^ハふ^ハと^ハと^ハ水^ハ如^ハ雲^ハ 土^ハ未

生^ハふ^ハ千^ハ金^ハ如^ハ腸^ハ寸^ハ死^ハ存^ハ不^ハ
一^ハ抹^ハ乃^ハ香^ハ烟^ハ小^ハ心^ハ一^ハ以^ハ西^ハ光^ハ廟^ハ
若^ハ小^ハ々^ハふ^ハ七^ハ日^ハ乃^ハ法^ハ筵^ハと^ハふ^ハ々^ハ
之^ハ十^ハ余^ハ輩^ハ如^ハ連^ハ甲^ハ十^ハ百^ハ負^ハと^ハ供^ハ費^ハ
一^ハて^ハ各^ハ冥^ハふ^ハ小^ハ合^ハ此^ハ寸^ハ

蓮阿房

志^ハふ^ハと^ハと^ハ去^ハれ^ハと^ハの

沫^ハ一^ハ 中^ハふ^ハ 々

四季詠 混雜

孫嵬如欠く藤より椿の卯

土来

叶 節や乱りて秋の川むら

百中

見く松よ世と花より乃益原小

一泉

曆小いのゝぬま日也 春水雨

松羽

とよりまし〜〜の蝶若

南湖

あゝあゝの枝〜かさく椿の卯

梅戸

むさ〜れ小来魂 ち〜〜雉子巻

南水

吹ん〜飲草籠 ち〜〜活水哉

麻亭

かけろよや月小川 ち〜〜おまき

旭里

あ〜山乃口小神 ち〜〜小杜平

南長

あ〜川よれ ち〜〜ち〜小杜平

紀六

ち〜〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜月

途迄

湖を一夜小嵬 氷の如

紀七

家彫乃細工えきまやままくく花
 祢ね人ひと云いへへ木き草くさ花はな芽こゝろとと落おちとと持もち
 笑わらやや川かわ早はやのの月つきももやや山やまははりり花はな
 庭にわああれれやや海うみ花はな茶ちや抄しやうととああららしし
 丁ちやうととふふせせああししととうう人ひと友とも花はな秋あき
 小こ一いち交かううう山やま如ごと家け江えはは木き花はな芽こゝろ
 立た消しょうのの花はな流ながををおおととくく之の雲うみ之の柳やなぎ
 雨あめををふふとと下くだ川かわももああらら木き花はな花はな
 乙おと児こ 川かわ子こ 浮うき橋はし 盈あふ枝えだ 武ぶ且ぢ 芳あふ文ぶん 雀すずめ 雀すずめ

山やまとと丁ちやう笑わら庭にわははるる花はな流ながのの香かほ 乙おと児こ
 暮くれふふうう山やま花はな小こ一いち交かううう山やま如ごと家け江えはは木き花はな芽こゝろ 藤ふじ巴ば
 花はなををかかららふふ小こ一いち交かううう山やま如ごと家け江えはは木き花はな芽こゝろ 葵あひろ子こ
 化くわ一いちとと花はな小こ一いち交かううう山やま如ごと家け江えはは木き花はな芽こゝろ 湖うみ水みづ
 巧たくくく山やま花はな流ながのの音ね 流なが之の
 月つき兼かね一いちりりやや山やま花はな流ながのの音ね 旭あす里り
 人ひと如ごと家け江えはは木き花はな芽こゝろ 浮うき橋はし
 二ふた日にち一いち日にち十じゅう日にち一いち日にち一いち日にち 盈あふ枝えだ

益々不_レ_レ花_レ不_レ_レ能_レ花_レ不_レ_レ寸
 南_レ長
 月_レ疎_レマ_レ一_レ丘_レら_レ麦_レ原
 松_レ好
 斗_レ粒_レま_レく_レ稜_レ所_レま_レく_レ拓_レ也_レ者
 全
 月_レ乃_レ晴_レま_レく_レま_レく_レ情_レ一_レマ_レ花_レ枝
 紀_レ六
 処_レ鳥_レマ_レん_レア_レ小_レま_レく_レ之_レ浮_レ志_レは_レし
 全
 二_レ三_レ町_レ 船_レく_レ吹_レく_レ庭_レ果_レ不_レ瓜
 瑞_レ戸
 育_レて_レし_レれ_レ田_レ果_レ飽_レま_レく_レマ_レ庭_レ木
 南_レ湖
 ま_レく_レと_レ今_レ書_レ乃_レ多_レマ_レ助_レむ_レえ
 有_レ水

切_レ志_レま_レハ_レ孫_レ小_レ負_レり_レ凡_レ中
 帰_レ夕
 小_レ柳_レ水_レ下_レマ_レ庭_レえ_レ花_レる_レマ_レり
 梅_レ株
 湖_レま_レく_レマ_レ日_レ歌_レ小_レ嘆_レく_レマ_レ書_レ下
 松_レ竹
 川_レ妹_レ小_レを_レ花_レく_レ山_レマ_レ庭_レ花_レ声
 遠_レ河
 負_レり_レの_レハ_レ庭_レ根_レく_レ啼_レ々_レの_レ歌_レ合
 庭_レ竜
 水_レ乃_レ花_レ秋_レま_レく_レく_レく_レ不_レ竹_レ人
 全
 月_レ乃_レ花_レま_レく_レく_レ本_レ花_レ果_レ花_レ時_レ五_レ水
 全
 物_レを_レま_レく_レ不_レ花_レく_レく_レく_レ木_レ下_レマ_レく
 流_レ之

秋は野を産む一丁花水

流之

吳牛在子かきぬ一とれ小

全

杜有咳や秋はく池ふく

至治

日くくや著いく玉く帰す

全

浮ふ水は世ハ帰る小舟

全

あはれ月と水く氷く

蓮心

根小海く柳は秋や雪飾

武旦

年行はるふと登より眼ふ

川子

悲瓦く小磁は男ハアハ次毛指

呂玉

日一川水は夕乃世流ふ一田原

庭有

蓮は実や花いさふあく水空

帰夕

草木程ふや蜂ハ志ハ一巾巾

蘭長

ぬくふととえさいこ海や腕月

魯帆

木岸ア向ふふふく月水欠

湖外

そ柱やハ紙書ハのれ礎小

石蟹

夜く虫ハとそ水認川岸水声

去角

文通一節

浮ニれ雲水下のやれく白牡丹 買夜

真作堂

雲水中のと之陰ア山下の夕夕 左列

濃列久堂

吟れく其魚くんア寸寸蘇小 海目

三列平坂

春ハア短小ふふれ小小一花 宗児

かくくく小小曾小れ主ア五月月勿 全

登小小切者れくくぬ月人 全

火れおこれくらハとりもも巨雄小 全

春水東とおれとのく啼蛙 漢明加 長強

同

日くくく々々と啼ち先く 里木

尾荒子

あ小れと月小主系椿小 和真

同サキ

白壁小松水雲終や麗月 花也

同

花さくぬくらふ花月婉兼小 敬止

八幡僧

春とちとけ年れつく々松小也 以足

素良松谷宗入亭松系盛小松小

ツミニ

梅くれ流とふまくす々つとま 露狂

久孔面之味上り其骨

武鶴宗

柳几



